

Title	営業組織の経営サイバネティクスの考察 - 生存可能システム・モデルからのアプローチ -
Sub Title	
Author	真木源治(Maki, Genji) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第879号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0879

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

真木 源治
(モービル石油株式会社)

主査 関谷 章
副査 鈴木 貞彦
奥村 昭博

所属

関谷 章 研究室

営業組織の経営サイバネティクスの考察 —生存可能システムモデルからのアプローチ—

石油業界の規模重視による過当競争、自由化後の混乱、及び一連の金融・証券不祥事から、あらためて今、営業政策が問われている。そして今や、石油業界では、自由化がもたらす生存競争が激化し、証券業界は組織の生存に直面している。

このような現象から、「営業組織は生き延びるためにどうあるべきか」と言う問題意識を持ち、経営サイバネティクスの一環である、スタッフォード・ビーアの「生存可能システムモデル」(Viable System Model 以下VSMとする。)を研究対象にした。

VSMの研究に於いて、その重要な論点で有りながら、「多様性の均衡」(管理すべき方の多様性と、管理する方の多様性を均衡させることによって、経営管理を行おうとするもの)についての研究が少ないことに着目した。そして、モデルの適用企業が、「如何に多様性を効果的に処理しているか」を明らかにすることを研究の目的にした。同時に、VSMの適用可能性を例証することも目的にしている。

そこで、石油業界で、長期的に環境にうまく対応し、業績の良い企業であるエッソ石油を事例に選定し、VSMによる分析を行った。

分析の結果、モデル適用企業の「多様性の処理」は、優れており、競争他社に比較して、「多様性の均衡」度合が極めて高いことが明らかとなった。また、VSMの提唱する、「組織の活動の構造」、「調整のあり方」をモデル適用企業に確認することが出来、VSMの適用可能性を例証することが出来た。

当研究を通じて、ビーアが提唱する「多様性の均衡」の概念は、経営管理の全ての局面に導入可能であり、有用であることが解った。